超昇寺城の実測調査

平城宮跡発掘調査部

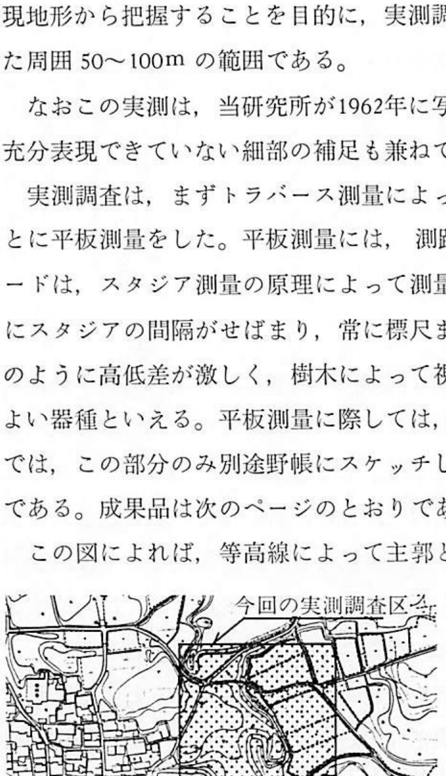
超昇寺は平城宮の北に隣接して築成された城である。この名は15世紀の中頃，超昇寺氏に関連した城として記録に現われるが，その頃の実態は明らかでなく，現在みられるような形態を構えたのは，戦国時代末期に松永・筒井両氏の抗争が激化した頃のことと考えられている。しかしながら実際の遺構は，空濠をまわした主郭とみられる方形台地と，これに北接する外郭とそれを囲むいま一つの濠の他には，顕著な痕跡を指摘できない。そこで今回，城の遺存状況を現地形から把握することを目的に，実測調査をすることにした。対象地域は方形郭を中心とした周囲 50～100m の範囲である。

なおこの実測は，当研究所が1962年に写真測量により作成した1000分の１地形図において，充分表現できていない細部の補足も兼ねている。

実測調査は，まずトラバース測量によって，調査地区一帯に図根点を設けたのち，これをもとに平板測量をした。平板測量には，測距アリダードＷＩＬＤ・ＲＫ1を用いた。このアリダードは，スタジア測量の原理によって測量するものだが，望遠鏡が傾むいた場合には，自動的にスタジアの間隔がせばまり，常に標尺までの水平距離が読みとれる構造になっている。今回のように高低差が激しく，樹木によって視通が自由でない場合には，測距が簡便でかつ能率のよい器種といえる。平板測量に際しては，間接法も併用した。すなわち複雑な地物の多い個所では，この部分のみ別途野帳にスケッチしておき，室内で平板図上に記入する方法をとったのである。成果品は次のページのとおりである。

この図によれば，等高線によって主郭と濠の形状を明確に把握することができる。また，東に隣接する水田は「コマ池跡」と呼称されており，古くは北からのびる谷筋を利用して形成された溜池の一部であったらしい。図から判断し得る御前池と下吉堂池の水面高がそれぞれ約74m，77mであるから，「コマ池」の水面高は約75mに推定できる。もし，これらの溜池が築城以来のものであるとするなら，図中の等高線から判断して「コマ池」の水は超昇寺城の濠にも及んでいたものと考えられる。

なお，周辺には他にも当城の痕跡の一部と思われる地形の高低差が随所に認められ，今後こうした実測調査が進めば，中・近世の平城宮跡周辺の概要を知るうえで貴重な資料となるであろう。



調査位置図

（本中　真）

下吉堂池
Y-18,900
74.80
75
79.35
78.57
（コマ池跡）
.28
75
74.73
79.45
X-144,900
80
80.84
75
御前池
75
75.54
佐紀神社
釣殿神社
0
30m

超昇寺城実測図